「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」から「苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会」への改組について

1 背景

近年、地球温暖化を起因とする気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっており、世界各国における地球温暖化抑制に対する社会の意識や関心が高まる中で、脱炭素社会に向けた動きが活発化している。

2015 年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2 度より十分低く保つとともに、1.5 度に抑える努力を追及すること」とされ、また、2018 年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を 2 度よりリスクの低い 1.5 度に抑えるためには、2050 年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされている。

我が国では、2020 年 10 月 26 日に内閣総理大臣所信表明で 2050 年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言された。

苫小牧においては、国内初となる CCS（Carbon dioxide Capture & Storage：二酸化炭素・回収・貯留の大規模実証試験が国家プロジェクトとして行われており、2012 から 2015 年度の実証試験設備の設計・建設・試運転等を経て、2016 年から地中へのCO2圧入が開始された。2019 年 11 月 22 日には、目標である累計 30 万トンの CO2圧入が達成され、現在は圧入を停止しモニタリングが行われている。また、二酸化炭素を資源として再利用するカーボンリサイクルの取り組みや、CO2 の長距離輸送技術の確立に向けた CO2 船舶輸送実証等、新たな取り組みが開始されたところでもある。

2「苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会」への改組

苫小牧では、2010年4月にCCS実証試験の誘致を目指し、地元企業や関係団体が一体となった「苫小牧CCS促進協議会」を設立し誘致活動を行ってきた。実証試験地が苫小牧に決定した後は、国や事業実施者、地元関係者と連携を図りながら、CCS の必要性や安全性を広く周知する活動を行うなど、地域理解の促進に努めてきた。

2016年には、水素エネルギー社会形成に向けた機運を高め、水素エネルギーを活用した地域づくりの推進を目的とした「苫小牧水素エネルギープロジェクト会議」が設立され、活動が行われてきた。

2020 年 9 月には、カーボンリサイクルに向けた国の動きを踏まえ、CCSのみならず、カーボンリサイクルやCCU（二酸化炭素・回収・有効利用）へ対象を広げ、CCUS（二酸化炭素・回収・有効利用・貯留）・カーボンリサイクルに係る実証試験等のプロジェクトや関連産業に対する地元誘致の理解と気運の醸成を図るとともに、既存産業とCCUS・カーボンリサイクル事業及び関連産業との連携により、地球温暖化対策と地域産業の活性化に貢献すべく、「苫小牧 CCS 促進協議会」から「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」へ改組を行った。

2021 年 8 月 24 日には、苫小牧市において、地球温暖化対策の更なる推進に向けた決意を示し、持続可能な快適都市の実現と、豊かな自然と調和した環境を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、2050 年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することが宣言された。

脱炭素化に向けた国の動きや、これまでの苫小牧地域が取り組んできた経緯を踏まえ、「ゼロカーボンシティ」への挑戦に向けた機運を高めると共に、CCUSやカーボンリサイクル、水素・アンモニア、再生可能エネルギー等を活用した脱炭素に関連する実証試験等のプロジェクトや関連産業の誘致、地元産業との連携による新たな産業展開や雇用創出など、地域の脱炭素化と地域経済の活性化に向け、市民や地元企業など地域一体となった取り組みを推進することを目的とし、「苫小牧CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」に「苫小牧水素エネルギープロジェクト会議」を併合し、「苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会」へ改組を行い、以下の活動を行う。

3 活動骨子（案）

本推進協議会の活動骨子（案）を以下に示す。

- ゼロカーボンシティ挑戦に向けた気運の醸成
- ＣＣＵＳ・カーボンリサイクル、水素・アンモニア、再生可能エネルギー等を活用した脱炭素に関連する実証試験等のプロジェクトや関連産業誘致に向けた活動
- 地元企業等とＣＣＵＳ・カーボンリサイクル等の脱炭素関連産業との連携促進
- 会員間の連携による新たなプロジェクトや産業の創出に向けた活動
- 広報・周知活動や情報発信
- 実証試験等のプロジェクト計画案に関する協議会としての検証、提言
- 上記活動を促進するために必要な調査や情報収集活動等